

# 小型沖曳網による平成29年(2017年)1~2月期のアユ採捕調査結果

孝橋賢一・井出充彦・久米弘人・大山明彦・田中秀具

## 1. 目的

アユの資源状況については、生活史の各段階において様々な手法により把握に努めているが、1~2月期においてはまだ体長も小さく、集群性も弱いため魚群探知機による調査でも資源状況を十分に把握しきれていない可能性が指摘されている。そこで小型沖曳網による採捕により資源状況把握を試みた。

## 2. 方法

平成30年1月22日から2月2日にかけて図1に示した琵琶湖北湖の6水域で小型沖曳網により採捕調査を行い、水域ごとに採捕尾数、体型を調べた。



図1 調査水域

なお採捕に用いた沖曳網(開口部450×1600mm, 袋網の目合4mm)の曳網ロープは片袖230mとし、1水域で水深8m~16m(浅)と19~60m(深)の水域で1回ずつ曳網した。

## 3. 結果

6水域のアユは、20m以深では、ほとんど採捕されなかったが、16m以浅の全ての地点で採捕された。

しかし1網あたりの採捕尾数は水域により127~942尾と大きく変動した(図2)。

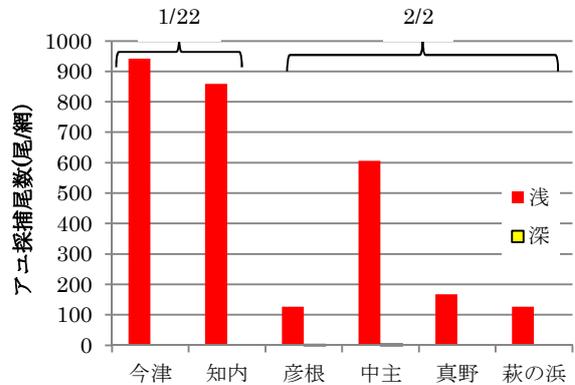


図2 小型沖曳網によるアユ採捕数

採捕したアユの体長について、同一調査日どうして採捕魚の平均体長の比較と行ったところ、1月22日の2水域(今津、知内)では差は見られなかったが、2月2日の4水域(真野、萩の浜、中主、彦根)では、地点間で有意な差が見られた(一元配置分散分析,  $p < 0.01$ )。

そこで地域差の見られた4地点において、多重比較(Steel-Dwass,  $p < 0.01$ )を行ったところ、彦根、萩の浜は他の2地点より有意に小さかった(図3)。

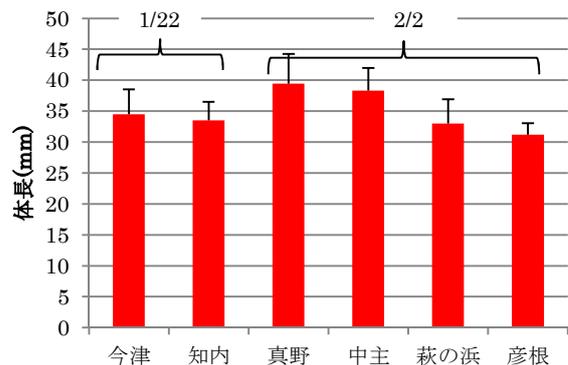


図3 採捕したアユの体長